

# 日々の祈り

2022 年 1 月 10 日(月)～15 日(土)

宮崎中部教会



## <はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

## <使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるまに、祈りの時をもちましょう。

## <今週の祈りの課題>

- ・イエスさまによって神の子とされていることを喜びつつ、日々を歩むことが出来るように。
- ・宮崎清水町教会、宮崎教会との交わりを感謝し、宮崎市における伝道の業が共に祝されるように。
- ・病や、心身の痛み苦しみ、また困難を覚えている者たちに、主の助けと平和があるように。

10 日(月)

ルカによる福音書 3 章 21～22 節

民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。愛する神さまの独り子イエスさまは、わたしたち罪人を救い出すために低くへりくだられ、最も低い所に立たれました。そして、わたしたちの罪の赦しのために、罪のないこのお方が、わたしたちの罪をすべて引き受けて、罪人のように十字架に架けられたのです。そうして、わたしたちもまた神さまに深く愛されている神の子であることを教えて下さり、神さまの御許へ帰る道を拓いて下さったのです。

11(火)

フィリピの信徒への手紙/ 02 章 06 節

キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

わたしたちの主イエス・キリストが成し遂げてくださったことを、深く心に刻みたいのです。「イエス・キリストは主である」と、わたしたちの舌が語り、神をたたえ、礼拝する者とされていることを感謝します。

12 日(水)

アモス書 5 章 4 節

まことに、主はイスラエルの人にこう言われる。わたしを求めよ、そして生きよ。

神さまは、わたしたちにこう言われます。「わたしを求めよ、そして生きよ。」主なる神さまのもとにのみ、まことの命があります。命の主である方が、わたしたちに愛と憐れみをもって呼びかけておられます。「わたしを求めよ、そして生きよ。」神さまは、わたしたちが神さまの御許へ立ち帰り、まことの命を得て、神さまに向かって生きることが望んでおられます。

13 日(木)

詩編 100 編 3 節

知れ、主こそ神であると。主はわたしたちを造られた。わたしたちは主のもの、その民／主に養われる羊の群れ。

「知れ、主こそ神であると。」これは、わたしたちの人生で、最も重要なことです。『新・明解カテキズム』(全国連合長老会日曜学校委員会編)の最初の問答はこうです。

「問 1 わたしたちが生きるために最も大切なことは何ですか。」「答 わたしたちに命を与えてくださった神さまを知ることです。」自分の命と人生が神さまのものであると知っていること。ここにこそ、本当の平安があります。このことを知らなければ、わたしたちは誤った、頼りない虚しいものや、自分自身を、自分の主人としてしまいます。

14 日(金)

申命記 10 章 14 節

見よ、天とその天の天も、地と地にあるすべてのものも、あなたの神、主のものである。

次の主日礼拝の御言葉です。天とその天の天も、地と地にあるすべてのものも、わたしたちの神、主のものです。すべてを創造し、すべてに命を与え、すべてを支配し、すべてを導かれるお方。わたしたちは、あらゆるものが神さまのものであり、神さまが主権を持っておられることを忘れてはなりません。わたしたちは、神さまを主人とする僕です。神さまが与えて下さったものを、神さまが喜ばれるように、神さまが望まれるように、用いる者になりたいのです。

15 日(土)

ルカによる福音書 20 章 25 節

イエスは言われた。「それならば、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」

明日の主日礼拝の御言葉です。神さまが主権をもち、神さまが与えて下さったものを、わたしたちは自分のものにしようとしてはなりません。それは神さまの目的のため、神の国のために用いられるべきものです。わたしたちがそのようにすることを、神さまが期待して託して下さったものです。そして神さまは、与えられたものを喜んで神の国のために用い、受けたものを喜んで神さまにお返しつつ歩む者に、さらに豊かな恵みと喜びを増し加えて下さいます。